台日文化經濟協會

Taiwan-Japan Cultural and Economic Association, TJCEA

TJCEA

2020
12
冬季號

設市百年開催 01

台北市設市慶百年
台日友好祝賀會 活動紀要

圖 / 文：社團法人台灣故鄉文史協會提供

投稿專欄 07

領導者的政治智慧道德
勇氣與魄力

會務活動 09

第11次理事會議紀錄

VOL.50

「台北市設市慶百年　台日友好祝賀會」活動紀要

「台北市」的發展腳步，從18世紀清末淡水河沿岸小村莊開始，往東拓展。20世紀前半，突飛猛進，一躍成為台灣首善之都。2020年，台北市恰逢施行市制百年，當時台灣總督府實施地方行政改革，五州二廳三市以及各郡街庄成立。台北市(Taipei City)作為一個實質的地方法人，誕生了首任市長與市議會，透過市議會監督市政預算，形成公民意識，市民(Citizen)們不論台灣人、日本人，都對未來充滿憧憬。台北市從此進入地方自治時期，各項公共建設與都市計劃加速進行，逐漸化身為亞洲新興的現代化城市。

1920年之後的「台北市」是東亞最年輕、富有活力的城市，輿論各界規劃藍圖，充滿理想與抱負。當時的新聞媒體也給予大篇幅報導，台北市有萬人以上的民眾提燈遊行，萬華、大稻埕各地陣頭紛紛出陣、舞龍舞獅，舉行許多祝賀活動等，史料顯示，這是台北市歷史發展的重大起點。

為了紀念此一深具歷史特別意義的時節，我們規劃了一系列的台日友好紀念活動，第一場活動「台日友好祝賀會」選在台北市大安區青田街、溫州街一帶，舊稱「台北昭和町」的社區舉行。該社區從1920年代開始，台北市內各項高等教育與公共建設陸續展開，許多菁英與專才從日本移居來此，開發街町，建立家園，逐漸形成特有的文教區，至今仍幸運存留50多棟木造建築。1930年代，台北市的日本人口占三分之一，是台灣島上日本人居住比例最高的城市。後日經戰亂動盪、物換星移，許多人失去家園，台北卻也移入中國新來居民入住，注入全新的文化活力。迄今百年，這些日式木造家屋及庭園綠樹所營造的人文氣息和溫暖氛圍，持續庇護、容納不同的族群和各方菁英；直到今日，社會進入多元共生的時代，匯聚形成特有的豐饒文化。

本次「台日友好祝賀會」為呈現不同時代厚重的歲月感，特別邀請著名的音樂團體加以呈現。首先登場的是日本箏與尺八二重奏（演出團體『華之和音』），第一曲「春之海」，該曲作者宮城道雄，曾帶領弟子來台灣做八場演出。第二曲「我只在乎你」，改編自曾在日本、台灣與中國，擁有廣大歌迷的鄧麗君名曲。其次安排的是崑曲「牡丹亭」（演出團體『蘭庭崑劇團』）；崑劇戰後在中國遭受文化大革命等壓迫，卻因隨著外省人來台，在台灣生根發展，文人風格得以保留，「遊園驚夢」之曲也表達族群遷徙來台，內心如夢的意境。

此外，還講述當年台北市民歌與市徽的象徵意義，舉行特別史料展，並分成三個主題：①歷史轉捩點：台北「市」的誕生，展出當年設市前後的新聞、總督田健治郎的日記、總務長官下村宏與首任市長武藤針五郎的文章等，②日本人引揚紀錄與相關文史資料，包括：1950年成立至今的台灣協會發行之「台灣協會報」、灣生的回憶錄與灣生團體發行的刊物「榕樹文化」等，③台北市日式木造家屋的調查紀錄與台北昭和町的保存運動等。最後進行交流茶會，選用了從昭和時代承襲至今的街町老店點心，與會來賓同享歡慶。

集合写真

祝賀活動有許多在台久居多年的日本人與大安區地方行政首長及居民、學者出席參加。經費承蒙台日友好民間團體、日本企業與台灣企業等共同贊助。這些鼓勵的力量，是我們持續朝向台日友好前景邁進的動力。台北市有今日繁榮景象，不應遺忘百年前基礎建設與日裔居民的貢獻，我們珍惜台北市百年前修來的美好因緣，為台北市的發展獻上祝福，也期許未來台日友誼永固！

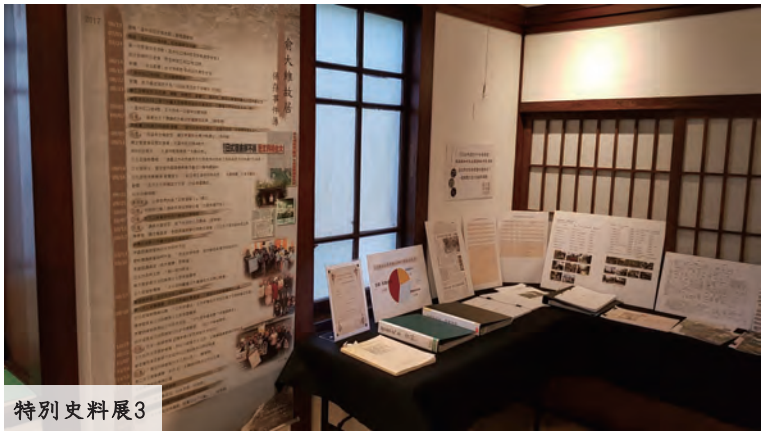
作者：社團法人台灣故鄉文史協會理事長 黃智慧

簡介：協會是非營利組織，2003年起在台北市大安區的青田街、溫州街一帶（舊稱『昭和町』）進行老屋老樹保存運動，該區仍倖存50多棟日本家屋，其中10餘棟登錄為台北市文化資產。2018年舉辦「昭和町日」活動，迎接老居民返鄉。2019年與大安區公所與戶政事務所合作，協助日本灣生申請戶籍謄本與其祖先在台足跡史料。相關活動請參閱官網：http://www.taiwan-furusato.com

台湾人日本人多くの方に来賓いただきました

特別史料展1

特別史料展2


特別史料展3

台北市制百周年 台日友好祝賀会開催

1920年10月1日、台湾で初めて地方自治制度が実施され、台北市が誕生しました。そして市議会が発足し、市役所が設置され初代市長を迎えました。この日の新聞には『市内各所で餅がまかれ、晩の提灯行列には万を超える人々が参列、万歳の声天地を震撼す』と、日本人と台湾人が共に「市民」として喜んだ様子が記載されています。

台北市は、20世紀前半に島内最大の都市となり、政治、経済の中枢、近代都市として飛躍的な発展を遂げました。1930年代の統計では台北市民の3人に1人が日本人であり、台湾全土の中で最も高い割合であることからも、日本人にとって住みやすい街であったことがうかがえます。当時の公共建築物は、現在も現役で使用されているものも多く、その歴史を今に伝えています。

台北市が市制100周年を迎える本年、当協会では一年を通して2021年まで記念イベントを企画しています。記念すべき節目の年に、ありのままの歴史に向き合い、今後も日本と台湾の絆が繋がっていくことを願っています。

その皮切りとして、11月28日に台日友好祝賀会を開催し、台日両国の多くの皆様にご出席賜りました。祝賀会では、台北市が成立した時代の市民歌や徽章、当時の高校生が台北を詠んだ詩集の紹介、日本時代に台湾に伝来した琴と尺八の演奏(出演団体:『華之和音』、曲目:宮城道雄の箏曲『春の海』とテレサテンの代表曲『時の流れに身をまかせ』)戦後に台湾に渡った崑劇(出演団体:『蘭庭崑劇團』、演目:『遊園驚夢』)の紹介などが行われました。また「昭和町」界隈で日本統治時代から続く老舗の和菓子や台湾の伝統菓子をご用意し、和やかなひと時となりました。

会場では、3つのコーナーで構成した小さな史料展を設けました。

①台北市制のはじまり——歴史が動いた瞬間——
1920年に台北市制開始時の台湾日日新報の記事や、台湾時報などの発行物、台北市史や田健治郎総督に関する日記、書籍などを展示

②ふるさと・台湾への思い
引き揚げ時の証明書や、引き揚げ史、戦後の引揚者たちの情報誌である台湾協会報や榕樹文化、湾生たちが綴った思い出の手記などを展示

「春の海」や台湾民謡を演奏

蘭庭崑劇団 牡丹亭

崑劇の鑑賞

③台北市の日本家屋の現状は？昭和町における保存運動

台北昭和町における日本家屋保存運動の経緯や文化財に登録された家屋の一覧、当協会のこれまでの活動などを展示

市制開始という歴史が動いた時の政府関係者や市民の思いと当時の様子、引き揚げを余儀なくされた人々の郷愁、そして、台湾に残された家屋が如何にして現存しているかなどに触れていただく空間を目指しました。現状、台北市にはこうした日本統治時代の歴史を語る資料館がないため、短い時間ではありましたが、これらの史料を知っていただく貴重な機会になったかと思います。

祝賀会で皆様にご紹介した、琴と尺八の演奏、崑劇、お茶菓子、これらはいずれも異なる民族を取り入れ発展した、現在の台湾の多元文化を象徴する一部です。それら「市民文化」に、会場である昭和町の日本家屋が持つ包摂性を重ね、歴史を振り返りつつ日台友好の基礎に繋げたいと考えています。

この関連イベントは、台湾企業及び日本企業、日台友好団体の皆様のお力添えにより、実現することができました。心より御礼申し上げます。民間の力が集結して成し遂げる日台友好の活動は、継続することによって更に大きな成果を生むと確信しております。私どもの活動に対する皆様のご厚意とご関心に感謝すると共に、引き続き努力してまいります。何卒温かい目で見守っていただければ幸いです。

作者：社団法人台湾故郷文史協会理事長　黄智慧

紹介：当協会は台北市大安区の青田街、温州街一帯（旧称「昭和町」）の日本家屋保存運動、かつて台湾に暮らした方々の当時の戸籍謄本申請や史料調査などを行うボランティア組織を経て、2019年に台湾内政部の公益認定を受け社団法人となる。2018年に主催、2019年に大安区役所と共催した「台北昭和町の日」イベントでは、昭和町の初代住民とそのご家族らの里帰りを、現在の住民たちとお迎えした。活動の詳細は協会ホームページをご参照ください。https://www.taiwan-furusato.com/

台湾日日新報　1920年10月1日・2日

▲宛然火の海の如く
▽萬歳の聲天地を震撼す

●昨夜の提燈行列
▽一箇師團に餘る大集團
▽約一里亙る大火列の壯觀

▽命された人々の
晴れやかな笑顔

臺灣日日新報

臺灣統治史上
永久に紀念す可き此日
五州二廳の天地に轟く萬歳の聲を聞け
亦本日也

臺北市の提燈行列
▽參加人員一萬を越える
勢調査も
本社の餅撒き

紅白の餅と共に
此日の喜びと祝ひを
大臺北市に撒布した
本社の餅まき